

育成 見附

見附市青少年育成センター

〒954-0051 見附市学校町 2-7-9

TEL 0258-62-5739 FAX 0258-62-2343

Mail : ikuseicenter@city.mitsuke.niigata.jp

見附市青少年育成センター 3年度の取組

5月17日に開催された「見附市青少年育成センター運営委員会」で今年度の育成センターの運営について、次のように承認されました。恒例の事業を改善・充実させ、効果的に取り組んでいきます。

1 運営の目的

青少年の健全育成を総合的に推進する。

2 運営の方針

- (1) 青少年の健やかな成長を支えます。
- (2) 青少年の非行の未然防止と早期発見に努め、楽しい生活を送るためのアドバイスを行います。
- (3) 青少年の悩みや心配事を、青少年・保護者と一緒に考えます。

3 主な事業

- (1) 街頭指導事業 <愛の一声で非行防止>
青少年が集まりやすく保護者や学校の目の届きにくい場所を巡回し、非行に結びつくと思われる行為に対し、愛の一声（注意・助言等）の適切な指導の手をさしのべ、青少年の自省を促すことで非行を未然に防止していきます。
- (2) 育成相談事業 <青少年なんでも相談>
青少年の不登校、怠学、いじめ、非行等の問題行動や悩み事に関する本人、保護者、学校職員、市民等からの相談に対し助言や相談を行います。

相談内容により、保護者の了解を得て、関係学校との連携や関係機関の紹介及び相談の委嘱を行います。

面接相談：水曜日（9時～16時）

面接場所：青少年育成センター相談室

電話相談：月～金曜日（9時～16時）

(3) 青少年育成事業

○環境浄化活動

青少年を取り巻く社会環境について、有害環境の把握に努め、関係業者の自主規制による協力要請を行っていきます。

○青少年育成関係機関・団体との連携

青少年育成の関係機関・団体との連携を深め、対策を協議していきます。

・市立小・中学校（シェイクハンド学校訪問）

・見附地区学校警察等連絡協議会

・見附市子ども支援対策地域協議会

7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」

内閣府は、昭和54年の国際児童年を契機として、毎年7月を「青少年の非行・被害防止全国強調月間」と定め、関係省庁、都道府県、市町村、民間団体などと連携して総合的な非行・被害防止活動を展開しています。

県内の青少年をめぐる状況を見ると、少年非行における検挙・補導総数は過去10年で減少傾向にありますが、福祉犯の検挙数は増減を繰り返しています。

近年、スマートフォンを始めとする新たな機器・サービスが急速に浸透するなど、青少年を取り巻くインターネット利用環境が多様化する中で、青少年が有害情報に接触する危険性が增大しているほか、児童買春、児童ポルノ等の犯罪被害に加えて、児童

虐待事件等による子どもの被害やいじめの問題など、青少年の非行及び被害の両面において予断を許さない状況となっています。

このため新潟県では、内閣府が実施する「青少年の非行・被害防止全国強調月間」にあわせ、関係機関・団体等が相互に協力・連携しながら、青少年の非行・被害防止に向けた諸事業を集中的に展開することとしています。

「青少年の非行・被害防止全国強調月間」の取組

「青少年の非行・被害防止全国強調月間」の7月、当青少年育成センターは、新潟県の実施方針を受けて「街頭育成活動の充実及び強化」に努めます。平時に行っている街頭育成活動をより充実したものにします。

「青少年を取り巻く社会環境の実態調査」は、新型コロナウイルス感染症対策として県全体で実施しないことから、見附市でも行いません。

街頭育成活動の際に、社会環境浄化の視点で観察することになります。

今年度の青少年指導員の方々を紹介します

街頭指導事業を推進して下さる「見附市青少年指導員」の皆様は次の26人です。7班編成で市内各所を巡回し、青少年に愛の声かけをします。出会う多くの青少年から明るいあいさつをもらい、育成活動に熱が入ります。よろしくお願ひします。

(敬称略 ◎印は班長)

1班	◎高橋美佐子	清水芳夫	佐藤秀一	野口紀代美
2班	◎親松 巖	関口光弘	結城功二	久保由貴
3班	◎中澤高雄	佐藤宏子	佐藤彰則	長谷川涼子
4班	◎長谷川善明	益田 楽	見附高校P	創進学園高P
5班	◎板垣秀幸	安藤光子	武田信一	小黑寛子
6班	◎小林恵子	永井藤子	家坂愛子	
7班	◎吉野敬子	徳橋良子	若杉信子	

年間街頭指導予定
活動回数 69回
(各班7回以上)
従事人数 延257人



※市内の高等学校の先生2人とPTA役員10人(中学校8人、高校2人)が含まれています。

街頭指導報告から

4・5月

青少年指導員は、名札(指導員証)を着けて街頭指導に当たっています。悪い行為を注意するだけでなく、道行く青少年をあたたかく見守ります。

4月7日

見附駅で定期券を購入する列が長く続いていた。帝京長岡高校と見附高校の生徒に声をかけた。それぞれ、入学式でのことを話してくれた。

4月8日

16・17時台の電車は、制服も新たな新入生でにぎわっていた。マスクは徹底されていた。

見附駅駐輪場は新入生の自転車が目立ち、きちんと整理されていた。吸い殻などは落ちていなかった。生徒たちはたむろすることなく帰路についていた。

4月14日

蕎麦屋とサウンドボウルで、店の方に話を伺った。来店する子どもたちに問題はなく、困ったこともないとのことだった。

5月19日

見附駅で、小雨の降るなか車椅子の人がバスを待っていた。バスが到着するが運転手が車椅子用のスロープを引き出すのに手間取り、車椅子の人はしばらく待っていた。近くにいた創進学園高の女子生徒が車椅子の人にさっと近づき、傘をさしだした。車椅子の人が乗車すると運転手は、今度はスロープを引っ込めるのに四苦八苦した。バスに乗っていた男子高校生が降りてきて運転手に手伝った。バスはようやく出発することができた。二人の高校生の行為を見て、心あたたかくうれしくなった。

5月20日

電車から降りた高校生が、駅前で横一列になってスマホを見て首を下に向けている光景は異様だった。